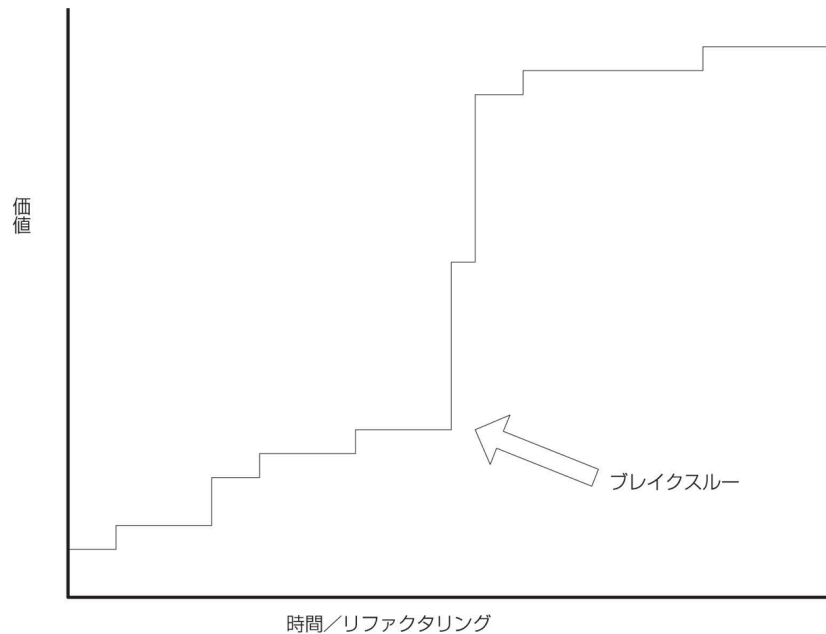




シンジケート・ローン

> 例えばIntel社が、10億ドルの工場を建てたいと思ったとすると、そこで必要となる融資額は1つの融資会社で引き受けるにはあまりに巨額である。そこで、複数の融資会社がシンジケートを組織し、ファシリティ(コラム参照)を支える資金を共同で出資するのである

> さらに厄介だったのは、丸めによって起こる微妙な不整合である。この問題は、どんどん複雑になっていくアルゴリズムでは押さえ込むことができなくなっていた

これは結構銀行業界あるある。割り算はやっかい。

> 新しいモデルが持つ決定的に重要な特徴は理解できた。すなわち、ローンの分担率とファシリティの分担率は互いに独立して変更できた

> (読む) この図8.3が表しているのは...切り離して交換するといったシナリオまである

この章の例ではシェアパイの発見がブレイクスルー。

> (読む) 冷静な意思決定

シェアパイの実装の話と思われる。この3週間がすぎるまではシェアパイはスケッチはしたものの実装はしていなかった。

(余談)モデリングとデータベースの結びつきの強さの話とか